

## 小津 安二郎「東京物語」における

### 「本音」・「建前」の分析

#### 序論

日本人の発言には「本音」と「建前」があるとよく言われる。つまり、言うことと心で思ったこととはある程度異なるということである。このような、「本音」と「建前」を使い分けることで、時には自己葛藤が生じるのである。

本論文は、「本音」と「建前」という概念を理解し、またなぜそのような自己葛藤が生じるかということの研究するのが目的である。研究分析する当たっては心理学的アプローチを使用することとする。なぜならば、「本音」と「建前」は登場人物の感情と深く関わるからである。研究分析の材料としては小津 安二郎作「東京物語」を使う。

#### 本論

「本音」と「建前」は日本において、心理的ことを示す言葉であると同時に、日本特有の社会現象を表す日本語である。まず、「本音」とは真実の感情・欲求を指す。これらは社会・立場から期待・要求されることと違う場合があり、しばしば正直に表現されない。また一方、「建前」とは

公に表す行動・意見を指す。これらは社会・立場から期待・要求されることで、「本音」と一致しない場合がある。

日本には「本音」と「建前」が社会の和と調和を保つという考え方がある、東京物語の対話において次のような「本音」と「建前」がみられる。シゲは、スキチとトミヒラヤマが熱海から早く帰ってきたため、失望したと言う「本音」がある。しかしこの日は、シゲがホストで自分の家で美容院の所有する女性たちが会か合する日なのである。

(0.58.09)

志げ : なんだって、帰っていらっしやったの？もっと  
ゆっくりしていらっしやいやいいのに。二、  
三日のんびりして頂こうと思ってたのよ。  
お父さん : うん...でも、もうそろそろ帰ろうかと思うてのう。  
志げ : まだいいじゃありませんか。たまに 出てらしたの  
に  
お父さん : いやあ... でも、もう帰らんと...  
お母さん : 京子も寂しいがとるじゃろうし。  
志げ : 大丈夫よ。お母さん、京子だってもう子供じゃないん  
だし。  
今度のお休み、歌舞伎にでもお伴しようと思ったのよ。  
そう...でも、そうそう、さんざんかけちゃ悪いけどのう。  
お父さん : お金が出さないとって。  
志げ : うん、ゆっくりしてらっしやいやいいのよ。今晚は  
ちょっと七時から家で会合があるけど。  
いいね講習会なのよ。  
お母さん : そう、大勢さん、およりになさるんか。  
志げ : え、生憎うちが 番だもんだから。  
お父さん : そうか... そりゃいけないだのう。  
志げ : だから、ゆっくりして来たほしかったのよ。  
あたしも、そう云つときゃよかたんだけど...

上記の対話では次のような意味が含られている自分の要求が人間関係を壊すのではないと思ひ、グループに問題が生まれるのを避けるために自

分の希望を控えなければならない。それは「建前」である。シゲの表明を受け入れるためにスキチとトミは「建前」として上記の対話をするのである。

次の対話はトミがノリコのうちに泊まる時、トミはノリコに、  
ショウジを忘れて早く再婚するようにすすめる対話である。

(1.15.04)

紀子 : 为什么呢か？

お母さん : 昌二の死んでからもう八年にもなるのに。あんたが  
まだああして写真なんか飾っとるのを見ると。  
わたしゃなんやらあんたが気の毒で...

紀子 : どうしてなんですか？

お母さん : でも、あんた まだ 若いんじゃないし...

紀子 : もう 若かありませんわ...

お母さん : いいえ、ほんとうよ。わたしゃ あんたに すまん  
思うて時々お父さんとも 話すんじゃないけど。  
いい 人があったら あんた いつでも 気兼ねなしに  
お嫁いって下さいよ。ほんとうよ、そうして  
貰わんとわたしらもほんとうにつらいんじゃないけ。

紀子 : じゃ、いいところが ありましたら...

お母さん : あるよ。ありますとも あんたなら きっと ありませあ。

紀子 : そうでしょうか。

お母さん : あんたにやあ 今まで 苦勞の させどおし、このままじゃ  
わたしすまん すまん思うて...

紀子 : いいの お母様 あたし 勝手に こうしてますの。

お母さん : でも、あんた それじゃあ あんまりのう。

紀子 : いいえ、いいんですの あたし この方が 氣樂なんですの。

お母さん : でも、あんた 今はそう。でも、だんだん  
年でもとってくると やっぱり 一人じゃ 淋しいけえのう。

紀子 : いいんです あたし 年取らないことに きめてますから。

お母さん : いい人じゃのう...あんたあ...

紀子 : じゃ、おやすみなさい。

上記の対話ではトミが本音を表し、ノリコは「建前」を相変らず断っている。対話の中にノリコがトミの表明を微笑で受け入れる。しかし、対話が終わって、トミが、ノリコに悪いと思い、寝ようとする時、涙を流す

のである。ノリコも寝たふりをしているのが、「本音」は自分も泣いているのである。実際、その対話は、ノリコの感情を抑えるが、トミの気分を害さないため、ノリコは何でもないように振る舞うのである。

#### 結論

映画「東京物語」には昭和の日本の家族の間の中にも、「本音」と「建前」がみてとれる。しかし現在でも日本人において「本音」と「建前」という概念は、社会構造における和及び調和を保つためにあるのである。「本音」を出せば相手に不快感を与えるので、「建前」を言うのが普通である。しかし、「本音」を出すことにより、話し手は気楽になる場合がある。

## DAFTAR ISI

	Halaman
KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI	iv
BAB 1	
PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Pembatasan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Metode Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB 2	
<i>HONNE DAN TATEMAE</i>	
2.1 Definisi <i>Honne</i> dan <i>Tatemaie</i>	12
2.2 Latar Belakang dan Perkembangan <i>Honne</i> dan <i>Tatemaie</i>	14
2.3 Perwujudan <i>Honne</i> dan <i>Tatemaie</i>	18
2.4 Pandangan serta Pengaruh <i>Honne</i> dan <i>Tatemaie</i>	23
2.4.1 Terhadap Masyarakat Jepang	25
2.4.2 Terhadap Orang Asing yang Berada di Jepang	28

## BAB 3

### ANALISIS FILM TOKYO STORY

3.1	Peristiwa Kedatangan Shukichi dan Tomi Hirayama ke Tokyo	31
3.2	Mengirim Orang Tua ke Penginapan	44
3.3	Shukichi dan Tomi Hirayama Meninggalkan Penginapan	52
3.4	Meninggalnya Tomi	61

## BAB 4

### KESIMPULAN

4.1	Simpulan	78
-----	----------	----

### SINOPSIS

### DAFTAR PUSTAKA

### LAMPIRAN

**LAMPIRAN**  
**HONNE DAN TATEMAE DALAM FILM**  
**TOKYO MONOGATARI (1953)**

*DATA HONNE DAN TATEMAE*

<b>Waktu</b>	<b>Honne/ Tatemaie</b>	<b>Pelaku</b>	<b>Keterangan</b>
0.05.04	Honne	Sukichi dan Tomi	ketika menungkapkan kebahagiaan mengunjungi anak mereka ke Tokyo
0.13.03	Tatemaie	Fumiko	ketika memberikan ide tambahan makan malam
0.14.26	Tatemaie	Noriko kepada Tomi	ketika menyangkal kesibukan kerja
0.19.52	Tatemaie	Sukichi dan Tomi	ketika diminta segera tidur oleh Koichi
0.20.47	Honne	Tomi kepada Sukichi	kekecewaan Tomi mengenai tempat tinggal koichi
0.22.27	Honne	Shige kepada suaminya	ketika melarang menjenguk Sukichi dan Tomi di rumah Koichi
0.25.10	Tatemaie	Sukichi kepada Koichi	ketika pasrah batal berjalan-jalan
0.26.22	Honne	Minoru kepada Fumiko	mengungkapkan kekecewaan tidak jadi berjalan-jalan
0.31.36	Honne	Shige	menyayangkan suami yang membeli kue mahal untuk Sukichi dan Tomi
0.35.10	Tatemaie	dilakukan Tomi	ketika Shige menyuruh memakai sandalnya yang kotor
0.41.24	Tatemaie	Noriko kepada Sukichi dan Tomi	melakukan penolakan terhadap pujian (setelah membawa jalan-jalan Sukichi dan Tomi)

0.45.53	Honne	Shige dan Koichi	rencana pengiriman ke Atami
0.50.40	Honne	Sukichi dan Tomi	ketika merasakan ketidaknyamanan di Atami
0.56.41	Tatemaie	Shige kepada tamu salon	ketika mengatakan sukichi dan Tomi adalah kenalan dari desa
0.57.40	Tatemaie	Sukichi dan Tomi	tidak mengatakah hal buruk mengenai Atami
0.58.59	Honne	Shige	kecewa orang tuanya pulang lebih awal dari Atami
“	Tatemaie	Sukichi dan Tomi	menanggapi pernyataan Shige mengenai keberadaan Sukichi dan Tomi yang mengganggu tanpa bertanya apa
1.09.02	Honne	Sukichi dan Numata	ketika mabuk di kedai sake
1.15.04	Tatemaie	Noriko	menyangkal kesepian setelah ditinggalkan Shoji ketika Tomi menginap
1.18.56	Honne	Shige	ketika Sukichi dan Numata pulang dalam keadaan mabuk
1.30.40	Honne	Sukichi dan Tomi	kesan mengenai anak mereka di Tokyo
1.58.16	Tatemaie	Kyoko	menanggapi pernyataan Shige ketika meminta pakaian milik Tomi sesaat setelah kematian Tomi
1.59.32	Tatemaie	Sukichi	menanggapi pernyataan Shige mengenai Tomi yang sakit
2.00.20	Tatemaie	Sukichi	penerimaan terhadap rencana kepulangan anak- anak mereka ke Tokyo
2.03.27	Honne	Kyoko	berbicara pada Noriko mengenai kekecewaan terhadap perlakuan kakaknya terutama Shige



2.06.57	Tatema	Noriko	menyangkal setiap pujian yang diberikan Sukichi ketika akan pulang ke Tokyo
2.08.25	Honne	Noriko	perasaan sebenarnya mengenai kesulitan dan kesepian yang dialami setelah ditinggalkan Shoji
2.11.20	Honne	Sukichi	mengungkapkan segala kekecewaan terhadap anak-anaknya selama di Tokyo

PERSENTASE *HONNE* DAN *TATEMAE*

